V エレウシスの祭儀／咲間貴裕

◆Piccolo, Flute

3 小節目の B♭アクセントはすぐ抜かず f の時間をちゃんととってから p にしましょう。12 小節目の 1st C♯、2nd D の音は低音で mp とありますが、音が届くように入りはアクセント気味にはっきりと吹きましょう。mf もしくは f でもよいと思います。[C] からの 1st と 2nd のかけあいは、練習の時には 1 人 2 役で休符のところも吹いて練習し、でこぼこしないようにしましょう。スラーで吹いたり、tenuto で吹いたりして音の粒をそろえ、徐々に音価を短くしていきましょう。ムラのないよう、軽やかに吹きましょう。26 小節目からの 1st とのかけあいも入りの fp アクセントを印象的に。タイで 6 連符のリズムが狂わないようにタイをとって練習しましょう。8 分音符 1 拍で数え、6 連符がきっちり拍にはまるように、リズムやテンポを変えたりしてさらいましょう。60 小節目の F♯のピッチが高いようでしたら、右薬指を中指に変えてみるとよいでしょう。63 小節目からの特徴的な 5 拍子のリズムはべたっとならないよう、スラーの頭をはっきりとアクセント気味に吹くとよいでしょう。[J] の A♭のピッチが高いようでしたら、右中指、薬指を押さえると下がります。ただし、あまりピッチを気にしすぎるよりも、ここは ff で勢いよく吹く方が大事かもしれません。

◆Oboe

[C] からは、先に出る Cl. Fl. のアーティキュレーションをよく聴いて stacc. を意識してはっきり吹く感じで。23 小節目の solo は、22 小節目の Tuba の旋律を受け継ぐ感じで、cresc. が伸ばす音にありますが、次の 5 連符からの動きをしっかり歌う感じで。[J] からの運指は様々なパターンがあります。各々の使用楽器によっても変わってくるので自分に合った運指を探して下さい。E は左手人差し指（ホールを半分空ける）＋左手中指、D♯は左手人差し指（ハーフホールを半分空ける）＋左手中指薬指＋G♯キィ、F は左手人差し指（ハーフホールを半分空ける）＋左手中指＋G♯キィ＋右手中指薬指＋E♭キィという選択肢もあります。93 小節目から 94 小節目に入る時は速いテンポの中で 1 オクターヴ上がるので 93 小節目の E の時点で 94 小節目の E を吹く準備をしておいてください。

◆Bassoon

最初から 14 小節目までロック・キィを使うと少し演奏しやすいです。（低音が多い時に使うと良いでしょう）6 連符が速くならないように注意しましょう。[D] は Ob. の solo から自然な流れで入りましょう。2nd は 3 連符の休符が長くなり過ぎないように気をつけましょう。[H] からは細かく丁寧に練習しましょう。左親指のフリックを忘れると A などの音が濁ってしまうので気を付けましょう。スラーの後ろを抜け過ぎて音がなくならないように気をつけましょう。67、68、89、90 小節目の cresc. はしっかりと。

Eleusinian Mysteries / SAKUMA,Takahiro

◆E♭Clarinet

『超』個人的な主観ですが、今年の課題曲Vは同じ音型が連続して書かれており、尚且つ不規則な音の並びでは無いので、スコアをしっかりと読み込み全体の仕組みを理解できると、とても取り組みやすい曲だと思います。冒頭から [B] までは fp を大胆に表現し、緊張感を持続しましょう。テクニカルなことを言えば、右手薬指と小指が分離しやすいので、普段から色々な調のスケール、3 度の跳躍、アルペジオなど取り組んでください。[C] ～ [D] 間のタンギングですが、コツは舌を硬くせず、『横にワイドに柔らかく』な発音を心がけましょう。トゥトゥトゥの発音では無く、曖昧なディディディ。stacc. が書いてありますが、私はそんなに短く処理はしていません。[D] 以降は D の音を基準に音楽が流れていくので音程に気を付けましょう。[I] は 60 小節目の F♯の音量が飛び出ないように。63、64 小節目は転びやすい音型です。しっかりと 16 分休符を感じましょう。[J] 以降も以下同文です。何回も同じ音型を吹くことにより音楽のテンションが下がらないように気を付けてください。

◆B♭Clarinet 1

この曲は基本的にずっと高音域が続くので音程が気になりがちですが、息の圧力を高め、息のスピードもゆるめず、音色作りを優先して練習していれば、自ずと正しい音程で吹けるようになるでしょう。[C] からの 32 分音符はすべての音に stacc. がついていますが、短く吹こうとしすぎると粒が揃わなかったり音によって音量差がついてしまう原因になります。p ですが、息の流れを止めずに普通の長さのタンギングをすれば、テンポが速いので十分 stacc. に聞こえます。

◆B♭Clarinet 2

3 小節目 3 拍目の裏からの音は鋭い発音を心がけましょう。5 小節目 2 拍目に向けての cresc. は mf までです。1st Cl. の音量に合わせてバランスをとりましょう。[C] から休符の後食いつきが遅れないようにしましょう。また音がボコボコしないようにタンギングのコントロールをしっかりしましょう。26 小節目から D の音が常に均等なタイミングで鳴っているように意識しましょう。また音量も連符の所は mf です。吹きすぎないように気をつけましょう。[E] からの 2、4 つ目の tr. は替え指を使いましょう。(high B♭の指にサイド・キィ下 2 つ) [I] は音の長さに細かく指示があります、しっかり吹き分けましょう。休符の取り方が重要になってきます。気を付けましょう。73 小節目頭の G♯の指は替え指の F1 (high B♭の指に右左人差し指押さえる) を使っても良いでしょう。85、89 小節目は前の 5/8 拍子から取りにくいところです。しっかりリズムが繋がるようにしましょう。94 小節目は Cl. でユニゾンです。音程をしっかり合わせましょう。運指も複数あるので音程がよく、また cresc. をかけても音質音程が保てる指を選びましょう。

◆B♭Clarinet 3

全般、楽譜に書かれている通りのダイナミクスを着実に守っていきましょう。[A] から [B] は埋もれて聞こえやすいため、Cl. パート全体でハッキリと大きめに演奏しましょう。[C] は

Eleusinian Mysteries / SAKUMA,Takahiro

cresc. まで p で我慢。26 小節からは連符は楽に吹いて、それよりも頭のアクセントをハッキリと充実した響きを持って吹きましょう。

◆E♭Alto Clarinet

3 小節目 2 拍目にある 6 連符は 1 拍目の Bsn. B.Cl. T.Sax. の動きをよく聞き流れに乗れるようにしましょう。14 小節目の 3 連符の真ん中の 16 分音符も周りによく合わせて。24 小節目 4 拍目、26 小節目 4 拍目、29 小節目 4 拍目は Hrn. をしっかり聞きアンサンブルしましょう。61、62 小節目では高い音が出てきますが、響きがかたくなりすぎないように豊かな息で演奏しましょう。73 小節目 3 拍目の D♭は右手サイド・キィでも良いですが、F1 もしくは F2 の運指を使うこともできます。ご自身に合った運指を探してみましょう。

◆B♭Bass Clarinet

3 小節目 2 拍目の E から G にスラーで移るために、左手は人差し指を立てて、その状態から指を上へ倒すように G のキィを押さえましょう。この指の形が基本なので、今後繰り返し確認しましょう。[A] の 8 分音符の stacc. は、1 つ 1 つの音に重さを加えるように、短くなり過ぎないように演奏しましょう。[D] 2 拍目の音は 1 拍目から伸びている音と半音でぶつかります。同じ音同士でピッチを合わせ「良いぶつかり方」を見つけましょう。[G] 以降の 5/8 はまずはリズムに慣れましょう。メトロノームを使い、ゆっくりから少しずつ練習しましょう。演奏上では、16 分休符の後の 8 分音符が伸びてしまわないよう注意しましょう。この曲は「8 分の 2+3 拍子」と「8 分の 3+2 拍子」を混在させてアクセントの位置をずらしてあるので、自分と同じ拍子のパートとアクセントの形、縦をしっかり揃えましょう。[H] 以降にアクセントがたくさん出ますが、全てとても重要です。鋭く発音しましょう。[K] は mp ですが、発音が柔らかくならないように、緊張感のある音で演奏しましょう。77 小節目 cresc. は可能な限り大きく、急激にしましょう。

◆E♭Alto Saxophone

まず最初に気になる「スラップ・タンギング」ですが、リードに舌を吸盤のように吸い付かせて離した際に鳴る「パチッ」という音の事です。練習としてはリードの裏面（平らな方）を舌に付けて吸い付く所を探します。表面でも出来るようにしましょう！舌の真ん中より少し奥気味の所にそのポイントがあると思いますが、それをもう少し先の方で探します。次はリードをマウスピースにあて（リガチャーは無しで）リードの下部の数ミリのところを押さえて口を開けたままで吸い付くように練習します。そして閉じても出来るようにし、完成です。人によっては数日数週間で出来た人もいますが、何年もかかる人もいます。リードが固すぎるとやりにくいのと Tenor や Baritone Sax. のように大きいマウスピースはやり易いようです。根気との勝負ですが頑張ってください！ [G] からは 5 拍子に慣れる為、メトロノームをゆっくり 8 分音符に合わせて練習をしてみましょう。特にブレスのタイミングが難しいので、ゆっくりのテンポでの練習で素早くブレスを取れる様慣れていきましょう。また、[L] のハーモニーはバランスをパート内でよく整えましょう。

Eleusinian Mysteries / SAKUMA,Takahiro

◆B♭Tenor Saxophone

2小節目の6連符の頭の音を少しtenuto気味に吹くと吹きやすいです。また強弱記号はpになっていますがアンブシュアを締めすぎないように注意しましょう。この曲は強弱記号が細かく表示されていますので、メリハリを付けるためにもしっかりと表現していきましょう。そして、この楽譜の難所…「スラップ・タンギング」ですが、Sax.パートでしっかりとアンサンブルをし、タイミングを合わせることが大切です！スラップ・タンギングの練習方法などはA.Sax.のアドバイスに書いてあるのを参考に練習してみてください。[H]からの旋律はゆっくりから練習しましょう。あまり、練習しすぎると腱鞘炎などになってしまう可能性がありますので適度な休憩を入れながら練習してください。[J]からのA→G♯の小指の運び方ですが、Aキィを押した後そのまま小指を寝かすような感じでG♯キィを小指の側面で押してみてください。スムーズに音が繋がると思います。またテーブル・キィのローラーを駆使してください！ fを吹きすぎてしまうと指に力が入り動かしにくくなるので、楽に演奏してみてください。この音域は音が太く聴こえるので大丈夫です。[L]からは拍子が目まぐるしく変わるので注意しながら演奏してくださいね。

◆E♭Baritone Saxophone

61小節目AはsideF♯キィを使った運指にすると前後の音の繋がりが良くなります。66小節目Hの時に普段用いるG♯キィではなくLowHのキィを用いた運指にすると次のDに進行し易くなります。87小節目C♯→Dの時のC♯をBキィとbisキィを人差し指で同時に押さえ人差し指をスライドさせてDに移る運指がありますが、あえてC♯をsideB♭キィを用いた運指にするとアクセントが付けやすく、音の動きもはっきりします。[G]からは2小節単位で細かくグループを取り4小節、時には6小節と言うように捉えるとやり易くなります。とても大変な部分だと思いますのでゆっくりから無理のないように練習をしてください。

◆B♭Trumpet

全体的にfが多いため、はじめから吹きすぎないように気を付けましょう。前半のテーマでもある[A]～[B]、[E]～[F]はffと記譜してありますが、全体とのバランスを考慮し、アンサンブルをするように心がけて演奏してください。12、14小節目のタイミングは指揮者、打楽器、コンサートマスター（又はミストレス）のブレスの動きをしっかり感じ取って演奏しましょう。27小節目からの音型は、ウインドアンサンブル奏では各パート1人で演奏していますが、複数人で演奏する場合はタイミングを合わせるために何かしらの言葉を当てはめて練習すればよいでしょう。後半の5/8拍子で、同じような音型が数多く出てきますが、4、5拍目にある16分休符のあとの8分音符16分音符の形は突っ込み過ぎないよう注意し、音量記号もfで書かれていますがmfくらいで演奏しても大丈夫です。確実に当てはめましょう。[N]からの旋律はユニゾンですが、合間に入っている（99、102小節目以降）は3パートに分かれます。音量記号はffですが、ユニゾンになっている旋律部分は楽に演奏してください。後半部分は早くなってしまわないよう、パートだけでの練習だけでなく、低音の動きと自身のパートをしっかり当てはめる事が大切です。

Eleusinian Mysteries / SAKUMA,Takahiro

◆F Horn

[A] は 2 小節ごとのフレーズで取り、アーティキュレーションを明確に付けましょう。10 小節目の 3 拍目のタイはタイミングをパートで合わせましょう。2nd. 3rd. 4th パートがしっかり音量を出し、1st は他の 3 パートに乗るようバランスを取ってみてください。12、14 小節目の 3 連符は詰まりすぎないようにリズムを正確にとりましょう。15、16 小節目のゲシュトップのベルトーンは音程とタイミングが正確に出来るように繰り返し練習しましょう。Sax. のスラップ・タンギングに合わせて音を切るタイミングもパートでしっかり合わせましょう。[D] から各パートで音を吹き直すタイミングが違うのでまずはメトロノームでゆっくりと合わせてみてください。55 小節目からはゲシュトップミュートを使用しても可と表記がありますが、アウトするタイミングがないので右手で行うことをお勧めします。[I] からは stacc. を意識しすぎて 5 拍子のリズムに遅れないように。72 小節目から 74 小節目は打楽器のリズムに乗り、dim. も表現しましょう。[L] からは Sax. パートと一緒に旋律なのでアーティキュレーションを合わせましょう。114 小節目の gliss. はタイミングがずれないように。

◆Trombone

まず、この曲は音を正確に取ることが難しいと思います。楽器で練習する前に、ピアノやキーボードで演奏しながら歌う練習をお勧めします。個人ではもちろん、セクションで歌って合わせるのも良いでしょう。バンド全体では非常に複雑な響きがしますが、Trombone セクションでしっかり固まっていれば、バンドの支えにもなります。また、この曲を演奏するにあたって半音階、跳躍、gliss. の練習が不可欠になります。半音階は Trb. にとってとても難しい技術ですので、ゆっくり丁寧に練習しましょう。跳躍の練習は短 2 度、長 2 度、短 3 度…といったように少しずつ跳躍の幅を広げる練習をすると良いでしょう。(例：B♭→H→B♭→C→B♭→…) gliss. の練習とは、gliss. している最中に音色や音量が変化しないようし、また音程を正確に取るための練習が必要です。テンポ通りに gliss. をする練習と、ゆっくりと gliss. をして音色を保つ練習を平行して行うと良いでしょう。曲中はアーティキュレーションの指示も細かくされています。その指示をきちんと守りましょう。[D] の gliss. についてですが、8 分音符が分割されて記譜されています。ですので、その 8 分音符一つ分の長さでたっぷり gliss. するのが良いのではないかと思います。また、2nd、3rd の 30 小節目 2 拍目は分割して記譜されていませんから、4 分音符 1 つ分の長さで gliss. するのが良いでしょう。

◆Euphonium

6 小節目からの 3 連符や 6 連符は大きなフレーズで流れが止まらないように演奏しましょう。[A] からは Tuba や低音パートとの発音と音の長さをしっかり揃えましょう。特に 8 分音符の stacc. は短くなり過ぎないようにしましょう。またアーティキュレーションが細かく書かれていますので、しっかり裏拍を感じながら演奏してください。[H] からはアクセントが骨のリズムになりますので意識して演奏してみてください。また同じ動きをしている Bsn. B.Cl. T.Sax. としっかりニュアンスを揃えていきましょう。特に発音やアーティキュレーションははっきりと意識して木管楽器を吹くイメージで練習していきましょう。何も書いていない 16 分音

Eleusinian Mysteries / SAKUMA,Takahiro

符ははっきり吹こうとして止まってしまわないように、リズムの流れを大切に演奏しましょう。8 分音符の stacc. は短くなりすぎたり、リズムが転んだりしないように気をつけましょう。[I] ～ [J]、[N] ～ [O] は同じパターンになりますので丁寧に練習をしてください。スラーの後ろの音を少し短めに処理をするとリズムがはっきりと聞こえます。77 小節目、87 小節～ 89 小節目は音量的にもテンション的にもしっかりと主張をしましょう。特に cresc. の時にテンポが遅くなったり音が長くならないように気をつけてください。この曲では Euph. の柔らかい豊かな音よりも、響きと芯のあるクリアな音で演奏することを意識してみてはいかがでしょうか。

◆Tuba

22 小節目は全音符に向かって poco rit. をしながら動きますが、22 小節目の B♭が跳躍のせいで音量が弱くなって埋もれてしまわないように注意しましょう。5/8 拍子のリズム・パターンはタイの音の処理が肝心です。音価一杯伸ばさずに、タイに付いているアクセントをしっかり強調すればジャンプしたようになり自然と音が抜けると思います。そうすると、タイの次の音符 (45 小節目なら G♭) が聴こえ易くなると思います。特に 47 小節目等や 90 小節目はタイの後のくい付くタイミングがよりシビアになってきますので、それを認識した上でタイミングを上手に図ってみてください。この曲は臨時記号が多く付けられています。リズムばかりに意識をとらわれず丁寧に音程をソルフェージュしましょう。ダイナミクスは pp ～ ff まで幅広く出てきます。その差をしっかり付けて、繊細で且つ迫力のある演奏を目指してください。

◆String Bass

出だしは Timp. の音に溶け込むような音色で弾きましょう。[A] は marcato のように 1 音ずつはっきり、そしてアクセントのある音とない音の差がでるように右手の弾き方を工夫してください。15 小節目はバルトークピッツィカート、ギターでいうスラップ奏法です。弦をつまんで垂直に引っ張って離すか、引っ掛けて左方向へはじいて指板に当てた音を出します。入りのタイミングが難しいのでスコアを見て他パートのガイドを記入しておきましょう。[H] までの 4 小節は低音と Perc. のみなので、アクセントの位置に気を付けてしっかり演奏してください。休符で遅れないよう少し早めにつっこむくらいの気持ちで。低音のリズムと木低、Euph. のリズムがかっちりはまると面白いので、自分のパートだけに集中せずに視野を広く持ってアンサンブルしてみてください。[M] からは ff で全パート鳴っていますが、弓の量を増やして音量を上げようとするとこのリズムに遅れていくリスクが増えるので、いつもより少し駒よりを弾くなどして対応しましょう。

◆Timpani

冒頭のロールは「1 つの長い音」に聴こえるようにしましょう。[B] で gliss. 奏法が出てきます。ペダルを動かし続けて音程を滑らかに変えていくのですが、拍通りのタイミングで G 音、E 音に到達するように気を付けましょう。また、必ずしも均等な速度でペダルを動かし続ける必要は無いと思います。38 小節目で f ～ ff になった後、39 小節目で突然 p になりますが、前の小節の残響がありますので、ほんの少し間が空いても大丈夫だと思います。全体的に ff や

Eleusinian Mysteries / SAKUMA,Takahiro

fff が多く出てきますが、あくまで“音程が聞こえる音色”を心掛けてください。

※演奏の便宜上、以下 Percussion 1 ～ 4 は、奏者間で楽器を入れ替えて演奏しています。

◆奏者 1（Percussion1：Whip,Bass Drum,Snare Drum）

Whip は、片手で振って鳴るタイプではなく、両手に持って挟んで鳴らすタイプの方がおすすめです。（ホームセンターで木材と蝶番を買って、自作して自分好みの音を探すのも良いと思います。）Snare Drum の rim の音色にもこだわりたいところです。今回は、スティックのショルダーから少しチップ寄りの所を使って演奏しました。スティックによっても出てくる音色が違ってくるので、色々試してみましょう。57 小節目からは、アクセントとそうでない音との差を明確に付けましょう。アクセントを強くするというよりも、そうでない音の存在感を弱めることを心がけましょう。114 小節目は、ロールしていた時よりもスティックをかなり強めに握ると単音が引き立ちます。

◆奏者 2（Percussion2：Suspended Cymbal,Triangle,Claves,Tambourine）

最初の Suspended Cymbal の pp は、重さのあるマレットを軽く落とすイメージで演奏すると浮ついた音になりません。8 小節目などに出てくる fp からの cresc. は、打った後に少し間を置いてからロールを開始することで綺麗な cresc. を作ることが出来ます。Triangle への持ち替えが少し慌ただしくなるので、スタンドに固定するのも良いでしょう。27 小節目～31 小節目の Crash Cymbals は、周りをよく聴いて強弱を作りましょう。mf の頂点を意識すると輪郭がはっきりします。[G] からの Claves は休符が伸びてしまいがちなので、予動でしっかりテンポを掴みましょう。強弱は p ですので、叩きにいくというよりは、上から軽く落とすイメージで演奏すると良いでしょう。[I] からの Tambourine は、後ろの 8 分音符を丁寧に演奏するつもりで、粒立ちの良い音を目指しましょう。Tambourine は、楽器の角度によってジングルの反応が変わってきますので、上手く利用して強弱を表現しましょう。

◆奏者 3（Percussion4：Tam-tam、Percussion3：2Bongos, 2Wood Blocks,Crash Cymbals）

冒頭 Tam-tam の 3 打は pp で、音量設定が難しいところですが、遠方から聴こえるイメージで印象的に表現しましょう。2Bongos、2Wood Blocks の速度打ちは、合奏の中で突出している印象ですが、独断的にならないよう、他の打楽器とアンサンブルをしているつもりで、流れに乗って演奏しましょう。43 小節目からの 2Bongos は、16 ビートを感じて正確に打ち込みつつ、5/8 の乗りを表現しましょう。[L] の 2Wood Blocks は、ff に挟まれた曲の谷間です。冷静に、無機質に打ちましょう。アクセント部分で管楽器との兼ね合いをきちんと感じてください。

◆奏者 4（Percussion4：3 Tom-toms,Wind Chime、Percussion2：Triangle）

3Tom-toms は、まず 3 つの楽器のチューニングをしましょう。2Bongos の音程と被らないように、楽器間の音程関係を考えてみてください。また Timpani の音程とも被らない方が良いかもしれません。スティックで叩く場合と、マレットで叩く場合の 2 種類がありますが、全

Eleusinian Mysteries / SAKUMA,Takahiro

体の響きに合わせて、粒が明確に出るものを選んでください。前半は不定数の連符が連発しますが、正確に演奏する事よりも、それぞれのリズムの表情をしっかり表現してください。後半の変拍子からは、楽譜に書いている事だけでなく、アンサンブル全体が拍子に乗れるように拍子感をしっかり出してください。リズムが要になっています。Wind Chime は楽譜に書いてある音量にとらわれ過ぎず、しっかりと主張してください。Triangle のトレモロは、合奏全体の響きにエキゾチックな輝きを与えられるような、しっかりとした響きと、倍音を出すように工夫してみてください。

◆奏者 5（Percussion 3：Xylophone、Percussion 1：Tubularbells、Percussion 4：Tam-tam）

この曲は、自分が何のパートをするにあたっても、他の打楽器パートや管楽器との兼ね合いをしっかりと理解しておく必要があります。Tubularbells は、前後の流れをよく聞き、その流れに沿った音を出せるように心がけましょう。3 小節目に出てくる Xylophone の fp のロールは、緊張感があるロールが好ましいと思います。[I] からの Xylophone のメロディーは、走りやすいので注意が必要です。特に 3 拍目からのリズムに注意しましょう。

Eleusinian Mysteries / SAKUMA,Takahiro
Eleusinian Mysteries / SAKUMA,Takahiro